

第3次米原市総合計画

将来像（11年後にめざす米原市の姿）の検討

「あなたが笑い わたしも笑う 幸せが生まれるまち」

しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと

今朝も清々しい。行き交う人の顔に希望が咲いているから。挑戦を応援するまちには、その源流に優しさや思いやりがある。幼き日よりせせらぎの水面や芽吹き of 香りに心を耕し、温かい眼差しや声掛けに包まれて、私たちは育ってきた。一人ひとりが輝き、手を結び合わせる力が、一人ひとりの幸せ、このまちの幸福な未来をつくり出す。

～あなたが笑い～

一人ひとりに活躍の場があり、挑戦が共感を得て応援される。それぞれに応じた支援の仕組みがあり、心も身体も充足感とエネルギーに満ち、個性を存分に発揮できる。

～わたしも笑う～

だれかの活躍や挑戦を心から応援する。その姿に勇気づけられ、「わたしも」一歩踏み出し、米原の宝を最大限に活用して未来を生み出す。だれかを支え、だれかに支えられる確かなつながりに、安心を感じ自然と顔がほころぶ。

～幸せが生まれるまち～

すべての人々が幸せを感じ、つながり、力を合わせることで希望が生まれる。新しいことは米原から始まる。楽しいことはいつも米原が先んじて手を付けている。希望があふれる米原に惹きつけられる人がいる。

～しずくを恵みに、未来を楽しむ米原びと～

米原市の自然、水と緑の資源の豊かさは、市民の誇り。この恵みを身体にしみわたらせる。地理的優位性と新幹線駅に代表される広域交通の利便性を活かし、まちの魅力を磨き上げ、活力あふれる希望に満ちた楽しい未来を創造する。それが「米原びと」。

第3次米原市総合計画の将来像の検討のポイント

ポイント1 自治基本条例を実現する目標

- ・米原市自治基本条例には、「世代を超えて住み続けられる魅力あるまちづくり」が“普遍的なまちづくりの目標”として明記されています。
- ・「住み続けられる魅力あるまちづくり」が普遍的な目標であることを前提に、第3次米原市総合計画には2027年～2037年のまちづくりの到達点、目標として「2037年のめざす米原市の姿」を掲げます。

ポイント2 市民と共感できる目標

- ・市民ワークショップでは、自然環境の豊かさや交通の要衝としての地の利、暮らしに身近な歴史文化、祭りなどが誇れる魅力として共有されました。
- また、将来像としては「みんなでつくる」、「個々が輝く」、「ポテンシャルを最大限に活かす」、「グラデーションのあるまち（多様な色彩や濃淡の違いが断絶することなく重なり合い融和する）」、「全てが繋がる両立するミライ」が提案されました。
- ・まちづくりは、行政や住民、事業者がそれぞれに取り組むものではなく、多様な主体が対話と協働するものであり、市民の声を反映し共感できる目標を掲げることが重要です。

ポイント3 11年後の社会にふさわしい目標

- ・AIやロボット、自動運転などの科学技術・情報通信分野、遺伝子治療などの保健医療分野、リニア中央新幹線や整備新幹線などの高速交通体系の整備といった様々な技術の社会実装・進展、さらには、地球温暖化、災害リスクの高まりへの対応など、近い将来に起こり得ることを想定すべき事象を踏まえつつ、目標を設定することが重要です。
- ・「幸福度」や「well-being（ウェルビーイング）」が重要視される背景には、経済的・物質的豊かさに加えて、一人ひとりの心身の健康・充足度、福祉に着目し、だれもが活躍できる社会が重要とされることがあります。
- ・これまで総人口をまちづくりの目標として掲げてきましたが、地方都市では中長期的な人口減少が前提となる時代において、人口だけではない目標指標を設定することが重要